

「オールワークスメイドの特別なお仕事 二時間目」 作 300y's

はじめまして♥

メイドのエリィと申します♥

いきなりですが、

これを聴いているメイド好きのご主人様なら、

昔、雑役女中と呼ばれ、

家事全体を任されたオールワークスメイドのことをご存知ですよね？

(もったいぶる)

ちなみに…。

私(わたし)のことです♥

(誇らしげに)

中でも私は…特別♥

スペシャルなオールワークスメイドだったりします♥

冗談でも嘘でもありません♥

(そそらせるように)

ただいま、ご帰宅されたご主人様と特別なお仕事の真っ最中です♥

ご興味がありましたら♥

ぜひぜひ♥

このまま聴いてみてください♥

× × ×

某所地下。

世界的な高級ホテルのスイートルームにも負けてない豪華すぎる部屋。

奥に鎮座する壮麗な天蓋付きのベッドに横になっている男女が二人。

疲れが取れ、体調が整った全裸のご主人様とホワイトブリムのみを着けたメイドの私。

「ご主人様…♥

寝心地はいかがですか？♥」

私はご主人様の乳首を指でふにふにいじりながら語りかけます。

「ちなみにメイドは最高です♥

最高のベッドに最高のご主人様と添い寝♥

最高以外ありません…♥

ご主人様の…お顔。

とてもとても幸せそうに見えます♥

(からかうように)

見えますが…。

ナニかを期待しているようにも見えます…♥

(囁き) ご主人様のエッチ♥♥」

ご主人様の乳頭をねじりあげながら囁きます。

「あはっ♥
いいお声♥
ステキな鳴き声ですね♥」

さらにねじろうとする私の手を掴むご主人様。

「あっ♥」

そのまま、私の上に覆いかぶさってきます。

「(一瞬慌てつつ、愛おしそうに)
ご、ご主人様っ♥ 積極的っ♥
よいですよ♥
メイドはご主人様の所有物でございます♥
お好きになさってください…(語尾感じる) あんっ♥」

許可と同時に私の豊乳を鷲掴み。

「はあっ♥ んんっ♥」

大きく柔らかなおっぱいは、つきたてのお餅以上にもちもち。
しっかりとした弾力が、ご主人様の沈んだ指を沈めた分だけ押し返します。
つまり、ひともみで虜になる揉み心地。

「あん♥ んんんっ♥ ひゃあん♥」

夢中でもみもみ。
熱中してこねこね。
どんどん強く揉みまくります。

「んあっ♥ ご主人様っ♥ はあん♥ 激しすぎっ♥」

おっぱいをこねくられる度、
体もうねうね。
気持ちがよくて勝手によじれてしまいます。

「あひっ♥ ダメっ♥ それっ♥ やっ♥ あひゃ♥」

よじれた瞬間、乳首をぐにっ。

「(電気が走る) はうっ?!♥
おっぱいと乳首っ♥ 一緒はっ♥ 反則…っ♥ です♥♥」

(乳首しゃぶり：始)

「んなっ!!♥」

今度は乳首を咥えるご主人様。
大きな乳輪を丸ごと口に含み、乳首をちゅうちゅう。

「あゝ ひっ♥ ンあっ♥ はふっ♥ ひゃひん♥
すっ♥ 吸いすぎっ♥ ですっ♥♥」
あふっ♥ そんなっ♥ ん♥ 吸ってもっ♥♥
ンあっ♥ んひっ♥ ひゃあっ♥ ミルクっ♥ 出ませんっ♥♥」

舌先で乳首を転がしたり、甘噛んだり。
唾液に濡れ、たぶたぶ揺れるおっぱい。

「ちょ♥ あゝ あっ♥ ひゃあんっ♥ あゝ っ♥ ひあゝ あっ♥」

一方、お腹には硬くて熱い感触がグイグイ。

「(感じつつ&息絶え絶え)
ごっ♥ ご主人様っ♥
当たって♥ ますうっ♥
硬っ♥ はあっ♥
熱うっ♥ ひゃん♥
勃起おちんぼっ♥ ヤバあっ♥♥」

待望すぎるちんぼの感触に私の中のメスがスタンディングオベーション。

「(恥ずかしそうに)
ご主人様…♥
メイドのおまんこ…っ♥
おちんぼを間近に感じて…♥
とってもヤバいです♥♥」

ご主人様は慌てておっぱいから離れ、ガン見できる位置に移動します。

「恥ずかしいですが…♥
隅々までご覧ください…♥♥」

おずおずと脚を広げると、
無毛のまんこの大陰唇に人差し指と中指を添えます。
ご主人様の熱い視線に指が震えます。

「(興奮しつつ)
くばあ…♥♥」

上部にはツヤツヤきれいな薄ピンクの勃起したクリトリス。
すぐ下には濃いピンクの膣の穴。
入口は愛液が糸を引き、奥は肉襞（ひだ）がうねうね蠢いているのが見えます。

「ご主人様のちんぼ♥ 待ち焦がれて♥
ぐっずぐず♥ とろっとろ♥
この中に入れたら♥ 気持ちよいですよ…?♥
でも♥ ご主人様専用のおまんこなので♥ ご主人様のちんぼに勝てっこありません♥
先にイってしまいます♥」

ご主人様はまんこに釘付け。息が荒くなっていきます。

「ここ♥ ホクロがあるのわかります?♥」

左の大陰唇をにゅうっと引き伸ばし、隠れたホクロを見せつけます。

「んっ♥」

ご主人様の息が当たって気持ちいい。

「はあっ♥ ご主人様あっ♥

おまんこが、奥までおちんぼ飲み込みたがっています♥

おまんこ肉で先っちょから根本まで…たっぷりもぐもぐしたがついていますっ♥

どうしようもないくらい気持ちよくなりたいですっ♥

中でびゅるるるーって熱い飛沫（しぶき）を感じたいですっ♥」

ご主人様は、目の前のまんこを大きくべろり。(SE)

「(感じる) ああ…っ!♥♥」

舌先を膣穴にねじこみ、(SE) ねっとりした愛液をかき出すように啜（すす）りはじめます。(SE)

「あひっ♥ おちんぼ欲しいのにつ♥

あ♥ あ♥ あっ♥ 気持ちいい♥」

クリごと膣穴を大きくベロンベロン。(SE)

「ん♥ ひっ♥ あ♥ っ♥ やっ♥ あ♥ っふ♥

おまんこもっ♥ 舐めるのっ♥ 上手（じょうず）っ♥ すぎっ♥ ですっ♥」

舐められるたび、体がびくん。跳ね上がります。

「あ♥ ひっ♥ ああっ♥ はあっ♥♥♥ いっ♥ あ♥ あっ♥ あんあん♥

あ♥ ひゃんっ♥♥♥（語尾甘イキ）」

(潮吹き)

甘イキして軽く潮吹き。

ご主人様の顔にびゅうびゅう直撃。

「(とろけつつ慌てる)

はあ…ああっ?!♥

やあんっ♥ もうしわけっありませ…っ♥」

ご主人様はあくまでも冷静。

浴びたイキ潮を舐め取るように唇をべろり。(SE)

さらに、べろり。(SE)

「(照れつつ)

ええ……♥

メイドの…潮♥ 美味しいですか……?♥」

軽く頷きながら、さらにぺろぺろ。(SE)

「(小悪魔チックに)

もっ…と…♥ 舐めてもいいですよ…? ♥

でも…♥

ぺロじゃなく……♥

おちんぼで舐めてほしいですっ♥」

ご主人様は、奇妙なおねだりにぴたりと舌を止めます。

「鈴口で♥ 膣穴ちゅっちゅっ♥ ペロペロしてくださいっ♥♥」

次の瞬間、へそまで反り返ったちんぽを掴み、ぐいつ。

ぬるぬるの膣穴に、鈴口でタッチ。

(膣穴タッチ)

「(感じる) あひっ♥」

さらに、擦るように押し当ててきます。(SE)

「はあっ♥」

それだけで感じます。

「んひっ♥ んっ♥ あうっ♥ ああうっ♥」

そこに、にゆるん。(SE)

ぬるぬるの膣穴にハマる亀頭。

あっという間に飲み込まれていきます。

「おっ♥ おちんぼっ♥ 入ってきますう♥」

気持ちよすぎる膣襞に無抵抗。

むしろ自分から喜んで中に入っていきます。

「はっあゝ あ〜〜〜…っ♥ (SE) あゝ びえっ♥♥」

根本までずっぷし。

さらに奥の奥に届かせようとぐいぐいきます。

「あゝ ♥」

奥の子宮口に亀頭がノック。

「あゝ っ♥ あゝ あゝ ンんっ♥ (語尾甘イキ)」

それだけで腰ガクガク。まんこビュクビュク。

「(余韻にとろけつつ)

はあ…っ♥ あゝ あ…♥ うううっ！♥ (甘イキ)
はあはあ♥ 入れただけで♥ イっちゃいましたあ……♥」

ご主人様は潮を吹くおまんこに構わず、腰をばつん。(SE)

「(感じる) おゝっ♥」

肉と肉がぶつかり、愛液と潮とガマン汁が混ざった音が響きます。

(抽送：始)

「ヤッ♥ あひっ♥ 溶けるう♥ おまんこ、とけますっ♥
あゝ♥ あゝ はっ♥ もおっ♥ とけてます♥♥
舐めても上手♥ ハメても上手♥ さすご主さますぎ♥ ですうっっ♥♥♥
あゝ ひっ♥ (SE) また潮吹いたっ♥ あゝっ♥ あゝ あっ♥♥♥」

覆いかぶさっておっぱいも口撃。

乳輪を舐め、乳首を舌先で転がしながら、ちんぽは止まりません。

「あ♥ あゝっ♥ あゝ あっ！♥ ごしゅさまあっ……！♥
チクペろっ♥♥ おまんこ…っ♥♥ 気持ちぢ…よすぎ…っ♥ はうああっ……！♥」

ご主人様は体をぐいっと密着。

一気に腰のケイデンスを上げてきます。

「ごしゅさまっ♥ イクんですかっ??♥♥
どおぞ♥ イッて♥ イッてくださっ!!♥♥♥」

ガクガクと腰を震わせながら子宮に押しつけられるちんぽ。

膣褰がききゅっとちんぽを甘ハグする中、精液がびゅうびゅう強く注ぎ込まれます。

(射精1)

「(とろける)
あゝ ひゃあんっ♥ ンンっ…♥
出てる出てる出てる出てますうっ♥
熱っづ…♥♥
ヤバこれヤバあああああ…っ♥
ごしゅさまの精液すっご……♥
ぐっちょぐっちょおまんこの奥っ♥
当たって……えあっ♥
あゝっ♥ ヤバ♥ またイクっ♥ いひっ♥
ごしゅさまあ♥ メイドもイキますうっ！♥♥
あゝ あーっ♥ はああああああン……!!♥♥♥」

体内から聴こえる射精音をBGMに深い吐息のようなイキ声。

遅れてぷしぷし潮吹き。(SE)

「(整息&余韻にとろけつつ)

はあ…っ♥ はあっ……♥

ごしゅさまのおちんぽ……♡
メイドの中…♡ びっくんびっくん跳ねて……♡ 気持ち、いっ……♡
はぁ…♡ はぁ…♡
射精してるごしゅさま、可愛いすぎます……♡
もっと…いいですよ？♡
もっとメイドの中♡ 出してください……♡
孕ませるくらいのイキオイで…中出し…お願いしま…っ♡♡」

ご主人様は私の体を抱えるように起こします。
そのまま汗ばんだ体をハグって、熱いキス。

「(キスしながら)
ちゅう♡ ちゅっ♡ ちゅうっ♡ ちゅっ…ちゅうううううっ♡
ご、ご主人様っ♡ くるしっ♡
はぁ♡ ンぁ♡ えっ♡ あゝっ♡ おちんぽっ♡♡」

つながったままのちんぽは萎えるどころか、ガチガチに勃起。

「(とろんとしつつ)
また…っ♡ ください…ませっ♡」

言い終わる前に腰を掴まれ、上下にゆさり。(SE)

「おゝ おっ♡」

愛液でぐっしょりのちんぽがずちゃり。(SE)

「ほあっ♡」

おっぱいを押し付け頬ずりする私を、さらにゆさり。(SE)

「おゝ っ♡ おちんぽっ気持ちいいですっ♡」

ゆさり。ゆさり。(SE)

「おゝ おんっ♡」

次第に早く、強く。ゆさゆさが止まりません。

「(どんどん気持ちよくなる)
これっ♡ イイっ♡ ですっ♡
奥っ♡ おぐううっ♡ 子宮口っ♡ ノック♡ ノック♡ ノックっ♡
ぼゝ あっ♡ ぼゝ おっ♡ ヤッバ♡ おゝ っ♡ んおゝ っ♡ おゝ おお♡

これヤバっ♡ これ好きっ♡
あっ♡ まっ(待って)♡ そこっ♡ カリ首っ♡ おゝ おおおっ♡
メイドの気持ちいいとこっ♡ ぞりぞりっ♡ ぐりぐりっ♡ 気持ちっ♡
にゅぽにゅぽ♡ にゅぽにゅぽおおっ♡ 気持ちいいっ♡

ごしゅさま♡ もっとっ♡ もっともっとっ♡ もっとおゝ おおおおおっ♡
にゅぽにゅぽっ♡ にゅぽにゅぽしゅごっ♡

にゅぼられおまんこヤバっ♥ ヤッバあ♥ これヤッバあっ♥
んおっ♥ おあっ♥ らめえっ♥ あっ♥」

ご主人様はぎゅうっとヒップを鷲掴み、ひときわ強く股間に叩きつけます。(SE)

「(とびかける)
あっ ひいっ?!♥」

(射精2)

「えっ あっ! ひっっ……!!♥」

背中が仰け反り、声にならない声。

「おっ おおっ♥ あっっ♥ おっ 精液っぶりゅぶりゅっ♥♥
しゅごっ♥ おまんこ焼けちゃっ♥
ごしゅさまのお射精♥ 気持ちいっ♥
あっ あっ♥ ヤダっ♥ 気持ちよすぎっ♥ メイドもイクっ♥
あっ ああっ♥ お射精でイクっ♥ おっ!!♥ おっ ひっ!♥ あっ へえっ!!♥」

子宮にたっぷり精液が注ぎ込まれた瞬間、膣内がきゅううっ。
ちんぽを締めつけ、さらに精液を搾り取ろうとします。

「きゃんっ♥ えっ♥ やっ♥ あっ♥」

ご主人様のちんぽも負けてません。
締めつけられた分、跳ね返そうとたくましく勃起。

「(感じつつ)
んきやっ♥ またきたっ♥ おちんぽっ♥ 萎え知らずっ♥♥
メイドもっ♥ ごしゅさまっお精液っ♥ 全部っ♥ 受け止めますっ♥
一滴残らずっ♥ メイドの子宮でっ♥ ごくごくしちゃいますっ♥
ごしゅさまっ♥ ターンエンドっ♥
メイドの番ですっっ♥♥」

私から腰をグラインド。
密着している股間を擦り回します。(SE)
ちんぽの根本を支点に、膣内で肉竿ぐりゅぐりゅ。
精液と愛液を攪拌(かくはん)するようにかき回します。(SE)

「(どんどん気持ちよくなる)
お精液ぐっちょぐっちょ♥ にゅぼにゅぼっぐっぽぐっぽっ♥
ごしゅさまあ♥ これっ♥ 子作り交尾っ♥♥
あっ きやっ♥ きゃんっ♥ あっ あっ♥
メイドっ孕ませてくださっっ♥♥ おっ おっ おおっ♥♥♥」

(射精3)

「(とびかける)
んおっっ…♥ あぢゅ♥ あぢゅいっ♥」

精液は噴水のように噴き上がり、
子宮の中で跳ね返って、びちゃびちゃ。
狭い子宮を満たします。
何億もの精子が泳ぐ精液のプール爆誕。
排卵即受精が可能です。

「(満たされつつ)
お腹ぽかぽか♥ ぽかぽかっ♥ 重っ♥ 重おお♥♥」

膣内はさらにむぎゅっと肉棒を締め上げ、精液を搾り続けます。

「はああ…っ♥ ごしゅさま♥ しゅき……♥ しゅきですう♥」

その後（ご）も、朝までご主人様とつながり続け、
回数を忘れるほど射精していただきましたが、
あふれた精液がまんこから逆流したのは初めての経験でした。

さすがメイドのご主人様です♥

× × ×

メイド好きのご主人様。
最後まで音声をお聴きいただき、ありがとうございます。
メイドと幸せな時間を過ごしたいと思っていただけたら最高です。

ぜひぜひ♥
ご帰宅のご予約お待ちしております♥